

目 次

1	銚子高校3年間の学習目標	…… 1
2	銚子高校年間学習計画	…… 2
3	学習支援プログラム	……3-5
4	模擬テストについて	……6-7
5	各教科学習のポイント	……8-19
	学習の記録	……20～
	①成績記録用紙（定期考査）	
	②成績記録用紙（模擬試験）	

年間の進路計画

月	学習関係		行事等
4	・課題テスト ・スタディサポート（全員） ・就職公務員模試（3年） ・総合記述模試（3年）	面談週間	・始業式新任式 ・入学式 ・オリエンテーション ・個人写真撮影(1年) ・部活動紹介(1年) ・離任式 ・身体計測，体カテスト
5	・全統マーク模試（3年） ・全統記述三氏（3年、2回） ・小論文模試（3年） ・就職公務員模試（3年） ・第1学期中間考査		・スポーツ大会 ・降下訓練（1年）
6	・総合学力マーク模試（3年） ・就職公務員模試（3年） ・英語検（希望者）		・文化祭
7	・第1学期末考査 ・実カテスト（1．2年全員） ・小論文模試（3年） ・総合学力模試（3年） ・就職公務員模試（3年） ・漢字検（希望者） ・夏季講習		・第1学期終業式 ・三者面談
8	・夏季講習 ・全統マーク模試（3年） ・全統記述模試（3年） ・漢字検（希望者）		・一日高校体験入学
9	・スタディサポート（1・2年全員） ・課題テスト ・小論文模試（3年） ・ベネッセ駿台マーク模試（3年）		・第2学期始業式
10	・第2学期中間考査 ・小論文模試（3年） ・ベネッセ駿台模試（3年） ・全統記述模試（3年） ・全統マーク模試（3年） ・英語検（希望者）		・防災訓練 ・修学旅行（2年） ・大学見学会（1年）
11	・実カテスト（1・2年全員） ・ベネッセ駿台模試（3年） ・センタープレテスト（3年）	面談週間	・生徒会役員選挙
12	・第2学期末考査 ・Kパック（3年） ・冬季講習		・第2学期終業式
1	・実カテスト（1・2年全員） ・課題テスト(1・2年) ・英語検定（希望者）		・第3学期始業式
2	・実カテスト(2年，マーク)		・高校入試（前後期）
3	・学年末考査		・卒業式 ・第3学期終業式
・ 平常時：漢字テスト，英単テスト，課外講習あり			

学 習 支 援

銚子高校では、生徒の進路支援を最重要課題として取り組んでいます。各学年に進路実現に必要な目標設定を行い、1学年では中学時代の学習を見直すことで、高校3年間の土台となる「**基礎力**」を育成することを目指します。



大学進学、専門学校進学、就職どの進路においても、「**基礎力**」こそ、自己実現の基盤と考えています。

本校が目指すのは、一人一人を伸ばすことです。例えば、入学という扉を開けると、そこには階段があり、階段の先に卒業という扉があります。その扉を開けた時、自分の可能性を広げることができる「**確かな力**」が身に付いていることを目標とします。



【学年目標】

- 1 学年 高校生としての学習習慣を身につける。
- 2 学年 受験の基礎固めをする。
- 3 学年 進路希望を実現する。

【自ら学ぶ姿勢作り】

学校での授業と家庭での自宅学習は車の両輪です。学校での授業に望む姿勢としての予習・復習を重視してください。難しいことに取り組むことも大切ですが、簡単なことでも毎日続けることが大切です。「**継続は力なり**」という言葉がありますが、続けることこそ最も難しいことです。

自主性も大切ですが、生徒一人一人の自宅学習の習慣が定着するまで宿題や課題として続けることを「要求」します。人間はともすれば易きに流れるものですので、厳しいようですが「要求」し続けることで、生徒の**自宅学習の定着を図ります**。

【学習方針】

1 学年

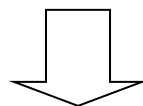
目 標・・・高校生としての学習習慣を確立する。
自宅学習・・・目標として、週20時間の自宅学習
（毎日2時間、土・日5時間を最低目標）
授業の「予習・復習」、「課題」は必ず行う。

2 学年

目 標・・・受験の基礎固めをする。
自宅学習・・・目標として、週25時間の自宅学習
（毎日3時間、土・日5時間を最低目標）
学習習慣（「予習→授業→復習」）の再構築をする。
入試問題の60％は2年までの内容！
授業の予習・復習がそのまま受験の勉強につながる。

3 学年

目 標・・・進路希望の実現
夏休み中には、基礎力（センター試験レベル）
を完成させる！



学習を進める

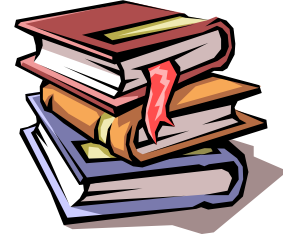
受験学力の完成！

【学習支援体制】

- ・ 家庭学習の記録

「**学習フランチート**」をつけることで
自学自習力を養います。

自ら学習計画を立て、記録することで、
自己管理能力を高めます。



- ・ 学習アドバイス

「**学習プランシート**」をもとに、生徒一人一人の家庭学習の状態を確認し学習相談に乗ります。自分に合った学習方法は、簡単には見つかりません。高校入学後、早い段階で自分の学習方法を確立することを支援します。

また、部活動との両立できるようにあらゆる支援をします。

- ・ 実力テスト（スタディーサポート、模擬試験）

定期考査に加え、授業や家庭学習などの毎日の取り組みが、どの程度定着しているか、また伸びているかを実感し、新たな目標設定を行うために実力テストを実施します。

- ・ 補習、講習の実施

補習や講習によって、得意科目の更なる発展と、不得意科目の克服を目指します。



日常的にも皆さんの悩みや質問に答えます

模擬試験について

模擬試験を徹底的に活用しよう！

1 模試は必ず受けましょう

1・2年は全員学校で決められた模試（実力テスト）を受験します。必ず全て受験して下さい。また、特に3年生は自分の志望校や実力にあわせて、公開会場の模試にも、最低1年に1回チャレンジして下さい。

「まだ勉強が進んでいない」とか「実力がない」とかいう理由で受験しない人がいます。それは、大きな間違いです。模試は自分の弱点を知り、それを克服するために受験するものですから、定期的に受験することで学習が効果的に進んでいるかがわかるのです。

2 模試は必ず復習しましょう

(1) 復習する理由

① 模試は真剣に解答している

模試はテストですから、家庭で問題集をやるのとは、真剣さが違います。1時間半から2時間、集中して解答しなければいけないわけです。そうやって解いた問題を、答え合わせもせずに捨ててしまっただけでは、模試にかけた時間と労力を無駄にしているのと同じです。

② 模試の問題は良い問題が多い

模試の問題は、受験に直結する良くできた問題ばかりです。

③ 解答解説も良くできている

解答・解説もそれだけで一冊の参考書になるくらい良くできています。

(2) 復習の方法

- ① 模試専用のノートを用意しましょう（教科ごとに用意しましょう）
- ② 間違えた問題、自信を持って解答できなかった問題を写したり、コピーを貼り付けたりしましょう。
- ③ もう一度時間をかけて解いてみましょう。
- ④ 答え合わせをし、自分がなぜ解答できなかったのか確認しましょう。
- ⑤ 解答・解説の要点を自分でまとめて、書いておきましょう。
- ⑥ 模試の結果が返ってきたときに、もう一度できなかった問題にチャレンジしてみましょう。

以上のことを3年間続ければ、自分独自の「弱点ノート」が完成します。このノー

トは受験の強い味方になります。

3 模試の結果が返ってきたら

- ① 全国的なレベルの自分の実力を図りましょう

偏差値が50で全国平均，60を超えたらなかなかの実力者，70を超えていれば超難関大学に合格できる可能性あり。

偏差値が45未満だったら，すぐ，学習計画を見直し，挽回作戦を開始！

- ② 自分の弱点を知りましょう

分野別の得点を全国平均と比較しましょう

- ③ 弱点克服の計画をたてましょう

上でわかった弱点を克服するために，学習計画を見直しましょう。担任，教科担当の先生に相談するとアドバイスしてくれます。

- ④ 合格可能性判定をみましょう

2年生後半の模試からは，合格可能性がでます。3年になって受験校が決定するまではあまり気にしないで下さい。あくまで，模試を受けた時点での自分の位置なので，判定がよくても安心してはいけません。判定が悪くてもあきらめる必要はありません。

まず，あとどれだけ点数を取れば，より上の判定になるか確認します。つぎに，そのためにはどの問題ができればよかったかを確認し，学力アップのための作戦を練ってください。

模試の日程は予定表参照

各教科科目学習のポイント

英 語

I 学習のねらい

実践的な英語力をつけるために、できるだけ生きた英語に触れ、自分の考えていることを的確に表現できる力を養います。また、英語を通じ、言語や文化に対する理解を深めていきます。具体的には、英語で自分の言いたいことを自由に書いたり話したり、英語の会話や放送、音楽、映画を聞いて理解したり、メールや本などに書かれている。

英文を読んで理解できるなど、実際のコミュニケーションの場面を想定しながら英語を学習していきます。

II 学習における心構え

英語を勉強できる時間は限られています。毎日の繰り返しを大切に、必ず予習・復習を行ってください。各英語の時間で週末課題やワークブック、ノートなどの提出があります。評価の対象になっているので、提出方法や期日を厳守してください。また、授業では失敗を恐れずに発言をしたり、積極的にペアワークや、グループワークに参加したりしましょう。

(1) 予習

1. 単語練習

英文中の意味の分からない単語は、事前に辞書で調べて意味の確認をしてください。その際に、文脈を考えて、単語の意味をおさえておくこと。

2. 授業用ノート作り

英文や単語を単にノートに写すだけでなく、英文の意味（訳）を考えておきましょう。また、文法項目であれば ZESTAR 総合英語（Z会）を読んでポイントをメモしておくなどの工夫が必要です。尚、ノートは丁寧に見やすく作ることを心がけましょう。

(2) 授業

1. できるだけ英語を使って話す努力をしてください。失敗を恐れてはいけません。

2. 積極的にペアワークやグループワークに参加すること。英語は自己主張をはっきりとする言葉です。受け身にならず、自分の意見をしっかり持って、授業に臨みましょう。
3. 大きな声ではっきりと音読をすること。読めない単語、意味の分からない単語や文をなくすために、繰り返し練習をしましょう。音読を繰り返すことで、自然と英語のリズムが身に付きます。
4. 授業の説明を聞き漏らさず、しっかりノートにメモすること。特に自分で予習した内容を確認しながら授業を聞くことで、学習内容が身につきます。

(3) 復習

1. 教科書を何度も読み、意味の分からない単語や文がなくなるまで徹底的に読み込むこと。
2. 新出単語や文法の基本例文を何度も繰り返し、書いて覚える。
3. 付属のワークブックを解き、間違えたところはきちんと理解できるまで練習すること。

Ⅲ 大学受験

学校で行う定期考査や模試も全て、2年後のゴール＝センター試験を意識して、何をどれくらいやらなければならないのか考えて下さい。センター試験のテスト形式は、リスニング、発音・文法・語法・語彙・長文読解に分れます。3年生では、その形式に慣れ、徹底的に取り組む事がメインとなります。すると2年生のうちにやっておきたいことは、ずばり基礎力の養成です。センターでは超難問といった出題はありません。センターで要求される英語力は高校2年生までくらいまでのものです。比較的優しい基礎的な大量の英文を素早く読み解く力や基本的な文法知識、リスニング力、語彙力、さらにその力を使って、より早く数多く正確に解答する能力が求められます。従って、2年生のうちにまずやるべき事は、教科書レベルの英文や問題にしっかりと取り組み、基礎力の完成を目指す事です。その一番の方法は、予習・授業・復習の繰り返ししかありません。学問に王道はありません。みなさんが卒業式で晴れ晴れとした笑顔で体育館を後にするその時のために、早速いまから教科書を開いて予習・復習を始める事を期待しています。

Ⅳ その他

- ☆ 年間8回の英単語テストが実施されます。英単語は英語を理解する上での基本部分です。英単語テストの優秀者（上位5名程度）は年度末に表彰されるので、表彰を目標に頑張ってください。
- ☆ 週末課題や長期休業中に英文読解問題集に取り組みます。その内容を後にテストするので、しっかり取り組んでください。
- ☆ GTEC という、英語の「読む」「聞く」「書く」「話す」の4技能の総合的な能力を測るテストを、7月の期末考査後に受検します。
GTEC 以外にも英語検定は年間3回受検ができます。自分で積極的にチャレンジをしてください。
- ☆ 放課後や長期休業中には、英語の補習や講習が行われます。日程を確認してどんどん参加しましょう。

2年後の目標を見据え、その場しのぎの学習ではなく、計画的に勉強を進めていってください。そのためには、日々の学習がとても大切です。分らないことや間違えてしまった項目をそのままにせず、ひとつずつ理解できるようにしていきましょう。英語科の教員に質問したり、参考書を見返したり、積極的な学習が英語学習のポイントです。頑張りましょう。

数 学

数学Ⅱ＋B

こんな質問、したことがありますか？数学が苦手な人、点数はとれるけれど、なんとなく公式を覚えているだけの人は、一度はこのような質問をしたことがあるはずです。数学を学ぶことは、『論理的な思考を養う』ことに役立ちます。他人に物事を伝える際、支離滅裂な構成でわかりづらい話をする人と、話に筋道が立っており、話を聞いた全員が納得できる話をする人、みなさんはどちらになりたいですか？みなさんにはこれから、論理的な思考を用い、『理由』から『結論』を導くことのできるよう、学んで欲しいと思います。

また、進学を考えている人は、高校卒業後も数学を学ぶ機会は数多くあります。理型の大学、学部の生徒はもちろんのこと、文型の生徒でも数学の授業を受講することもあるはずです。現在人気のある心理学部や、経済・経営学部の生徒は、高校数学の知識が必要な講義や、統計学といった学問も学ぶことになるでしょう。

目先の得点だけで一喜一憂せずに、将来の自分を頭に描きながら高校数学を学んでください。

【学力をつけるために】

① 教科書の例題が第一

教科書を見てください。どの教科書にも例題があるはずです。この例題は、公式の活用だけでなく、問題を解く上での大切なポイントをしっかりと抑えています。この例題の内容を、しっかりと理解することが重要な鍵となります。教科書の章の中には、基礎から応用まで様々な例題がありますが、そのすべてが独立しているわけではなく、流れるようにつながっています。その流れを追い、つまずいたら一度戻って復習する、そうして少しずつ問題のポイントを理解していきましょう。

② 例題から、問題へ

例題で満足してはいけません。今度は、学んだことを利用して、自分の力で問題を解きましょう。いきなり難問を解くのではなく、基本的な問題から一歩ずつ進んでいきましょう。①と同様に、つまずいたら例題を見て、もう一度チャレンジしてください。

③ 章末問題で腕試し

①②を実践できたら、章末問題にチャレンジしましょう。章末問題は、A 問題（基本）・B 問題（応用）という分け方をしていることが多いです。まずは A 問題に取り組み、自分の理解できていないところを知りましょう。そのとき、必ずその項目のページに戻って、例題を解いて下さい。A 問題に自信が持てたら、B 問題や、その他参考書にチャレンジして下さい。

【授業を活用するために】

① 数学Ⅱ＋Aとの関連

数学Ⅱ＋Bの内容には、数学Ⅱ＋Aとの関わりが深い単元があります。三角関数は三角比との関連が、最大値・最小値の問題には平方完成との関連がある、といったように、1年生の内容を疎かにしていると、2年生でも苦労することになります。そこで、1年生の時の教科書、ノート、参考書はいつでも取り出せるところに置いておきましょう。つまずいたらすぐに見返して復習することを心掛けてください。

② 理解を深めるために

時間内に問題が解けてしまって、暇な時間を過ごしている人はいませんか？そういう時間に、ぜひ別解を考えてみましょう。今まで学んできた知識の中で、この問題に活用できるものはないか、考えてみて下さい。数学の解答へのアプローチの仕方は何通りもあります。こうして解法を考えることが、より深い理解へとつながります。様々な解法をひらめく、そんな能力を養ってください。

【大学入試で必要となる人に】

数学Ⅱ＋Bを受験で使う人は、早めに学習を始めてください。3年生になってからでは間に合いませんので、2年生の授業と同時に受験を意識した学習に取り組んでください。

この時期に基本的な問題に取り組むことで、3年生になってからの学習が楽になります。

【最後に】

数学に限らず、全教科で言えることですが、家庭学習の時間を確保することが何よりも大切です。部活動をやっているから、家が遠いから、そう言って逃げていませんか？ほんの少しの時間でもいいですから、毎日決まった時間に勉強しましょう。数か月後、成果は必ず現れます。

【おすすめ問題集】

○数研出版

チャート式基礎と演習 チャート式解法と演習 チャート式基礎からの数学

○東京書籍

ニューアクション α ニューアクション β ニューアクション γ

ぜひ、買う前に数学科で相談してください。

数学B

【数学Bとは】

数学Bは数列とベクトルが大きな単元となります。この二つは、今まで学んできた数学とは少し異なるところがあるため、最初は戸惑うかもしれません。しかし、仕組みを理解し、なぜそうなるのかをノートや教科書に自分の言葉でまとめることで、理解が深まります。また、そうすることで、発展的な内容になっても戸惑うことが少なくなると思います。

【数列】

数列では、ある規則をもった数の列から、第 n 番目の項を求める、等の内容を学びます。等差数列、等比数列、階差数列、群数列・・・様々な数列が出てきますので、一つひとつ整理しながら学んでいきましょう。自分が今何を求めているのか、見失ってしまう生徒が多いように感じます。目標、指針を立てて、問題に取り組んでください。

【ベクトル】

ベクトルの問題では、しっかりと図を書く習慣をつけましょう。ベクトル方程式や、空間ベクトルでは、視覚を用いて整理することが必要です。垂直条件や平行条件、ベクトルの内積等、様々な性質や公式を図形の中で用いることで、今まで計測することの難しかった長さや角度を求めることができるようになります。

【最後に】

数列もベクトルも、上に書いた様に、戸惑ってしまう人が多いかもしれません。そのと

きはすぐに質問をして下さい。授業中に質問しづらいときは、放課後でも休み時間でも構わないので、数学科まで来てください。理解できるまで、説明します。

国 語

2 年 使える知識の体系化

弱点のチェックと補強、さらに知識を使えるようにするため、「入試頻出国語問題集」など、国語の基礎力をつけるための 1 冊を最低でも 2 回は学習すること。日常会話では使わない語彙（ごい）が、将来のセンター試験問題の文章問題に使われます。3 年生になってからでは勉強する余裕がありません。

漢字 1 年次と同じ。ただし、90 点は得点できるように準備をすること。

現代文 副教材を利用した演習も始まります。解答にいたるプロセスを大切にし、記述力を磨くこと。読書については、新書や選書にまで幅を広げて、論理的な文章を読む訓練を重ねること。さらに、要約力も身につけること。要約力が最も実用的な国語力です。

古文 敬語法や助詞・助動詞は、理解できている人とそうでない人が明確に二極化する傾向がある。文脈を読み取る現代文の能力を活用し、先生の力を借りて、正しく理解しておこう。

漢文 ワークブックやプリント等を利用して、漢文句法と漢文重要語を自分のものにしよう。句法の理解が充分ならば、漢文は内容がパターン化しているので、どんなテストでも 8 割以上得点できるはず。

* 言語による表現及び言語の理解は生涯を通じて培うものです。相手を思いやりながら自分の考えを伝える。相手の考え、思いをくみ取っていく。その基礎となるのは高校までの国語学習です。

地歴公民

地歴公民（世界史 A）

世界史は、どう勉強したらいいのかわからない、と高校に入って感じる科目の代表だと思います。中学校ではほとんど学習しませんからね。

ざっとこの 5000 年間に、人類が地球上のあちこちで行ってきた戦争をはじめとするありとあらゆる出来事は膨大なもの。それを教科書 1 冊、コンパクトにまとめると、かなり

濃いものになります。理科室の骨格標本で人体というものを十分には想像できないように、学校の教科書 1 冊だけで、世界の歴史をイメージするのは難しい。

そこで皆さんには、漫画世界史や、映画や小説などから入っていくことを勧めます。『ヘタリア』とか横山光輝『三国志』もいいですね。ナポレオンとか楊貴妃とか、人物に興味をもつのもいい。その後、授業で使う副教材（図説）をどこでもいいから手当たり次第に眺めてみる。そうして世界史への関心を段々高めていってほしいです。

実際の勉強のポイントは、**時間と場所を徹底的に意識すること**です。**タテ（時間）とヨコ（場所）を意識する**。「誰が何を？」の以前に、「いつどこで？」を常にイメージし確認するクセをつける。面倒でもこれをやらないと、また、これができないと、世界史を嫌いになる可能性が大です。教科書は、ある地域の歴史を時間に沿って少し記述すると、次に他の地域に話に移り、時間もまた前に戻ってしまいます。そしてまた他の地域に話に移り……。これで頭が混乱し、世界史って訳わかんない、となってしまう。

「いつどこで？」を押さえたら、次に「誰が何を？」に進んでください。実は歴史の勉強の本筋はさらに進んで「なぜ、いかにして？」なのですが、これは後回しでいい。最終的に歴史の勉強は、いつ（**when**）・どこで（**where**）・誰が（**who**）・何を（**what**）・なぜ（**why**）・いかにして（**how**）の**5W1H**を把握することで完成します。

地歴公民 日本史 A

日本史 A は、近・現代の日本史を中心に学習します。具体的には、幕末のペリー来航から現代までの歴史を週 2 単位（一週間に 2 時間の授業）で勉強する科目です。

日本史 B は、3 年次に 5 単位で学習し、主に原始時代から現代までを通史的に学習します。本校では日本史 B での大学受験を勧めていることから、受験科目としての日本史 A での受験選択者はほとんどいませんが、日本史 B の近・現代分野の事前学習だと考えてもらって良いと思います。

日本史の近現代は、小・中学校でもあまり教わってはいません。（年間授業計画でもなかなか終わらないままになってしまい、高校で初めてその詳細を習う事が多いのも事実です。）私たちの曾祖父や曾祖母たちが笑い・泣き・喜び・傷ついた近・現代史＝日本史 A を一緒に学んでいきましょう。

学習の重点

- ① 教科書をていねいにしかも繰り返し読みましょう。
- ② わからないことは必ず調べましょう。それでもわからなければ教師に聞いて疑問点を必ず解決しましょう。
- ③ 2 年次の近・現代史の学習が、3 年次の日本史受験のベースになることを意識して学

習しましょう。

- ④ 将来外国で暮らすことを考えている人や通訳ガイドを目指す人は、自国の歴史を知っていないと日本人として誇れません。この際にしっかりと学習しましょう。

学習参考書の例（日本史 A・B 共通）

用語集

日本史B用語集（山川出版） 大学受験を考えるならば必携。

ノート形式

ウィニングコンパス 日本史の整理と演習 とうほう（センター・私大）

鎌倉時代などは執権別に事項を整理してあるなど、記載されているノートの形式に合わせて学習すると実力がつく。ノート形式の部分を 8 割出来れば、MARCH に合格可能。授業ノートに換えて使用してもよい。

問題集形式

はじめる日本史 50 テーマ Z 会（センター・私大）

基礎力養成には最適と考えられる。授業ノート・教科書・本書を合わせて使用することで基礎力を充実させることが可能。8 割出来れば日東駒専に合格可能。

実力をつける日本史 100 題 Z 会（センター・私大）

難易度が高い問題集。本書を 8 割できれば早慶上に合格可能。

センター試験日本史B重要問題集 実教出版（センター）

センター対策用として良好。

論述形式

書いてまとめる日本史 河合出版（私大・二次論述）

私大の論述問題対策として、また国立大二次論述対策の基礎力養成として良好。

段階式 日本史論述のトレーニング Z 会（二次論述）

国立大二次試験論述に対応。難易度は高い。

理 科

生物基礎

◆科目内容

「生物基礎」では「生物と遺伝子」、「生物の体内環境の維持」、「生物の多様性と生態系」の 3 つの分野について学びます。これは生物を分子・細胞レベル、組織・個体レベル、そして生態系レベルとミクロのレベルからマクロのレベルまで幅広く、生物の共通性と多様性という視点を通して、生物や生命現象に関する基本的な内容を学習します。

◆学習上の注意

1. 基本的な用語・名称は、習ったらすぐに覚えること

授業中、新しい用語（現象名、生物名、器官名等々）が次々と登場し、それらを使いながらまた新しい事柄の説明がなされます。一つ意味が分からない用語があると、関連した全ての事柄の説明が分からなくなってしまいますので、授業中は先生の説明に集中し、新しい用語の説明を受けたら、必ずその時に理解し覚えて下さい。重要な用語は、教科書に太字で示してあります。また、用語だけではなく図表もしっかり理解してください。試験では図表が良く出題されます。縦横の項目や単位にも注意してください。さらに実験内容も良く出題されますのでその方法や結論についても十分理解してください。

2. 現象をただ覚えるのではなく、原因や理由を考えること

授業では様々な生物反応や生命現象を学びますが、「なぜそうなるのか」を考えるようにして下さい。ただ単に「こうなれば結果はこうなる」ということを覚えてただけでは、本当に理解したことにはなりません。常に原因や理由を探求する姿勢で学習に取り組めば、その反応や現象について深い理解が得られます。

3. 現象を比較して考える

授業で生物反応や生命現象を学んだとき、関連した事柄と比較して考える習慣をつけるようにすると、理解や記憶の手がかりとなります。

例1：原核細胞について学習した→真核細胞と比較し、違いを考えてみる

例2：生態系における窒素の循環について学習した →炭素の循環と比較し考えてみる。

◆定期テストの対策

まず、教科書のテスト範囲を授業ノートと併せてよく読み、基本的な用語を理解します。次に副教材「リード Light ノート生物基礎」を使って基本用語をちゃんと記憶しているかチェックして下さい。間違えたら、出来るまで2～3度繰り返します。

基本用語を覚えたら、次は問題演習です。こちらも出来なかった問題は、解説をよく読み、内容を理解し、後でもう一度解いてみましょう。できるまで何度も繰り返すことが成績アップの秘訣です。

◆センター試験対策

センター試験では大問3題と教科書の3つの分野が対応して出題されました。したがってどの分野からもまんべんなく出題されるということです。センター試験の解答形式はすべてマーク式で、選択肢から正解を選んで別紙のマークシートの数字を塗りつぶします。これは高校の定期試験などにみられる一般的な解答様式とはかけ離れているので、ある程度練習が必要です。センター試験はその独特な解答形式から、教科書の知識をそのまま問うという素直な問題だけでなく、知識の組合せを聞いたり、誤りの文章を指摘させたり、論理・考察が必要とされる問題もあります。そこで、まず、教科書レベルの知識を習得し

た上に考察を積み上げることが必要です。基礎力養成のためには「リード Light ノート生物基礎」を何度も演習して完璧に仕上げてください。これで平均点以上はとれます。それ以上を目指すにはセンター試験の過去問を解くことをくり返します。しかし、センター試験の過去問は 1 年分しかありませんので、模試をうまく活用してください。模試は専門家が作成した良問でセンターの予想問題でもあります。模試の問題や解説を切り取ったり、コピーしたりしてノートに貼ってまとめるとよいでしょう。

地学基礎

地学は、大気や岩石、星といった身近な自然を扱うので、誰でも、ある程度の基礎知識を持っている教科です。高校の地学と小・中学校の地学の相違点は、さまざまな地学現象の様子を知るだけでなく、それらが「なぜ」起きるのか、その理由を学んでいくことにあります。

高校で学ぶ地学の内容を分野別に分けると、以下のようになります。

- ① 固体地球分野 ② 地質・地史分野 ③ 大気・海洋分野
- ④ 地球環境分野 ⑤ 天文分野

<授業では>

地学の教科書は本物の自然を紹介した図や写真が多くて読みやすいのですが、詳しい説明や解説が不十分な場合があります。生徒諸君の多くが悩む項目を、当たり前のこととして説明していないのです。したがって、授業では解説に十分時間をかけますから、板書を書き写すだけでなく、説明は聞き逃さないように必ずノートにメモをしてください。その授業時のテーマだけでなく、既に学習した分野との関連、押さえておく理解しやすいポイントなど、全体を把握していないと気付かないことを必ず説明します。授業中はノートを整理する時間ではありません。しっかり自分の頭で考えることに全力を尽くしてください。

<予習・復習>

予習は教科書を読むだけで構いませんが、少しずつ読んでいくやり方だとなかなか全体像がつかめません。重要事項のつながりがわかるように、各章の全体を読み通してください。地学現象では、ある現象が一つだけ独立していることは少なく、さまざまなものが複雑に関わりあっていることが多いのです。教科書のあるページで触れられていたことが、全く違うページで、違う側面から記述されていることがあります。これをそれぞれ別のこととして捉えるより、矢印などでつなげて一つの図や表にし、体系的に理解していく方が

覚えやすいと思います。思考回路を用語の偏重と数値の記憶から解放し、図形やグラフで物事を考える習慣を、ぜひ身につけてください。基本的な知識を頭に叩き込んだら問題演習です。簡単に解けなかった問題は演習ノートにまとめ、どこでつかえて解けなかったのか、解答解説を十分に活用し、弱点を明確にすることが必要です。そして、必ず1日後と1週間後にもう一度見直してください。スムーズに頭に入ってくると思います。記憶術は五感を活用することを勧めます。内容をまとめる際に声を出しながら書き、耳に入ってくる音と実際に発声する口の動きで覚えていくのです。ただし、何十回も繰り返すことを忘れないで。

物理基礎

物理は運動、エネルギー、波動、電気、原子などの分野の自然現象を理解しようとする学問です。現代の社会では物理の知識が多く利用されています。

自然現象の本質を理解するために物理では数学を利用します。高校の物理で使用する数学の主なものは、四則計算、方程式、文字式、三角形の合同や相似などの図形の知識、三角関数などです。数学の知識や数式は物理を理解するための道具です。

物理の学習では、

「用語を覚える。」

「単位を覚える。」

「公式を覚え、式を作れるようにする。」

「自然現象や実験の内容を物理学的にとらえられるようにする。」

が必要です。

また、用語や公式を暗記するだけでは物理の問題は解けません。どの公式を使い、どのような筋道で問題を解くかを考える必要があります。論理的な思考と計算が要求されます。

学習方法

授業のノートは後で見たときに、要点や暗記すべきことなどがわかりやすいように自分なりのコメントなどを追加したりするとよいでしょう。

公式の使い方は例題や基本問題を解くことで覚えましょう。式と計算と答えを自分で書くことを通して身に付けていきます。

授業の復習と、練習問題を行ってください。授業時間だけの学習では勉強不足です。

センター試験や模試では広い範囲から出題されます。物理の学習が進んだら、今日は運動の分野、明日は波動の分野、明後日は電気の分野のように忘れる前に各分野を繰り返し学習するとよいでしょう。

物理の入試問題を解けるようにする実をつけるために国語、数学、化学の学習もしっかりと行ってください。

国語は問題を正確に読み、必要なことを短時間で理解するために不可欠です。

数学は物理にとっては道具であると同時に、どのような公式を使うか、どのような手順で解いていくかという論理的な思考に不可欠です。

また、高校の化学と物理の分野の一部は重複しています。同じ分野でも物理で扱う内容と化学で扱う内容は切り口が異なる部分もありますが、関連が深いです。主な分野としては気体の法則や、気体の状態方程式です。物理でも原子と元素記号の知識が必要です。

物理以外の科目にもあてはまりますが、授業時間以外の学習の習慣をつけてください。

定期試験成績記録用紙

- 1 **Plan** 定期試験に向けて，計画を立てましょう。
目標点数を設定しましょう。
- 2 **Do** 計画にしたがって，頑張って，学習しましょう。
- 3 **Check** 試験勉強，試験の結果を振り返りましょう
- 4 **Action** 毎日の学習状況の問題点を発見し，学習のしかたを改善しましょう。

定期考査() 実施期間 月 日～ 月 日

1 得点

科 目										
目 標 得 点										
実際の点数										
次回目標偏差値										

2 感想・反省と次回への決意

3 保護者から

4 担任から

定期考査() 実施期間 月 日～ 月 日

1 得点

科 目										
目 標 得 点										
実際の点数										
次回目標偏差値										

2 感想・反省と次回への決意

3 保護者から

4 担任から

定期考査() 実施期間 月 日～ 月 日

1 得点

科 目										
目 標 得 点										
実際の点数										
次回目標偏差値										

2 感想・反省と次回への決意

3 保護者から

4 担任から

定期考査() 実施期間 月 日～ 月 日

1 得点

科 目										
目 標 得 点										
実際の点数										
次回目標偏差値										

2 感想・反省と次回への決意

3 保護者から

4 担任から

定期考査() 実施期間 月 日～ 月 日

1 得点

科 目										
目 標 得 点										
実際の点数										
次回目標偏差値										

2 感想・反省と次回への決意

3 保護者から

4 担任から

模擬試験活用シート

- 1 模試は、必ず受験の目的と得点の目標を明確にして、受験すること。
- 2 受験直後と答案が返却された後に必ず復習すること。
- 3 成績表をみて、自分の弱点を発見し、その克服方法を工夫する。

模擬試験名(第 回) 受験日 月 日～ 月 日

1 受験の目的

2 得点

科 目					
目 標 得 点					
自 己 採 点					
実際の点数					
偏 差 値					
次回目標偏差値					

3 復習等の記録

受験後の自己採点と復習 (月 日) (月 日) (月 日) (月 日)

返却後の復習 (月 日) (月 日) (月 日) (月 日)

4 成績表からわかったことと今後の対策

5 コメント

模擬試験活用シート

- 1 模試は、必ず受験の目的と得点の目標を明確にして、受験すること。
- 2 受験直後と答案が返却された後に必ず復習すること。
- 3 成績表をみて、自分の弱点を発見し、その克服方法を工夫する。

模擬試験名(第 回) 受験日 月 日～ 月 日

1 受験の目的

2 得点

科 目					
目 標 得 点					
自 己 採 点					
実際の点数					
偏 差 値					
次回目標偏差値					

3 復習等の記録

受験後の自己採点と復習 (月 日) (月 日) (月 日) (月 日)

返却後の復習 (月 日) (月 日) (月 日) (月 日)

4 成績表からわかったことと今後の対策

5 コメント

模擬試験活用シート

- 1 模試は、必ず受験の目的と得点の目標を明確にして、受験すること。
- 2 受験直後と答案が返却された後に必ず復習すること。
- 3 成績表をみて、自分の弱点を発見し、その克服方法を工夫する。

模擬試験名(第 回) 受験日 月 日～ 月 日

1 受験の目的

2 得点

科 目					
目 標 得 点					
自 己 採 点					
実際の点数					
偏 差 値					
次回目標偏差値					

3 復習等の記録

受験後の自己採点と復習 (月 日) (月 日) (月 日) (月 日)

返却後の復習 (月 日) (月 日) (月 日) (月 日)

4 成績表からわかったことと今後の対策

5 コメント

模擬試験活用シート

- 1 模試は、必ず受験の目的と得点の目標を明確にして、受験すること。
- 2 受験直後と答案が返却された後に必ず復習すること。
- 3 成績表をみて、自分の弱点を発見し、その克服方法を工夫する。

模擬試験名(第 回) 受験日 月 日～ 月 日

1 受験の目的

2 得点

科 目					
目 標 得 点					
自 己 採 点					
実際の点数					
偏 差 値					
次回目標偏差値					

3 復習等の記録

受験後の自己採点と復習 (月 日) (月 日) (月 日) (月 日)

返却後の復習 (月 日) (月 日) (月 日) (月 日)

4 成績表からわかったことと今後の対策

5 コメント

模擬試験活用シート

- 1 模試は、必ず受験の目的と得点の目標を明確にして、受験すること。
- 2 受験直後と答案が返却された後に必ず復習すること。
- 3 成績表をみて、自分の弱点を発見し、その克服方法を工夫する。

模擬試験名(第 回) 受験日 月 日～ 月 日

1 受験の目的

2 得点

科 目					
目 標 得 点					
自 己 採 点					
実際の点数					
偏 差 値					
次回目標偏差値					

3 復習等の記録

受験後の自己採点と復習 (月 日) (月 日) (月 日) (月 日)

返却後の復習 (月 日) (月 日) (月 日) (月 日)

4 成績表からわかったことと今後の対策

5 コメント

模擬試験活用シート

- 1 模試は、必ず受験の目的と得点の目標を明確にして、受験すること。
- 2 受験直後と答案が返却された後に必ず復習すること。
- 3 成績表をみて、自分の弱点を発見し、その克服方法を工夫する。

模擬試験名(第 回) 受験日 月 日～ 月 日

1 受験の目的

2 得点

科 目					
目 標 得 点					
自 己 採 点					
実際の点数					
偏 差 値					
次回目標偏差値					

3 復習等の記録

受験後の自己採点と復習 (月 日) (月 日) (月 日) (月 日)

返却後の復習 (月 日) (月 日) (月 日) (月 日)

4 成績表からわかったことと今後の対策

5 コメント
